

# 外来診療日一覽

■休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29-1/3)  
 ■初診受付時間 8:30-11:00(窓口)  
 ■再診受付時間 8:15-17:00(自動再来受付機)、8:20-17:00(窓口)  
 ■外来玄関開閉時間 7:30-18:00

## ■外来診療棟

階/西	診療科名	初診日	再診日
4階/西	心療内科 TEL 092-642-5335	月・水	火・水・金
	呼吸器科 TEL 092-642-5388	月・水・金 ※要紹介状	月・火・水・金
	外科 ●消化管外科(1) ●胆道・膵臓・脾臓移植・腎臓移植外科 ●呼吸器外科(1) ●乳腺外科(1) ●内分泌外科 TEL 092-642-5453	火・木	火・木
	外科 ●消化管外科(2) ●肝臓・膵臓・門脈・肝臓移植外科 ●呼吸器外科(2) ●乳腺外科(2) ●血管外科 TEL 092-642-5479	月・水・金	月・水・金
4階/東	先端工医学診療部 TEL 092-642-5993	月・水・金	月・水・金
	産科 TEL 092-642-5900	月・金 ※要紹介状	月・金
	婦人科 TEL 092-642-5409	月・火・水・金	月・金
4階/東第2	ペインクリニック(麻酔科連携) TEL 092-642-5719	月・火・水・金	月・金
	再生歯科・インプラントセンター TEL 092-642-6361	月・金	月・金
3階/西	内科 ●血液・腫瘍内科 ●免疫・膠原病・感染症内科 ●消化管内科 ●腎・高血圧・腎血管内科 ●内分泌代謝・糖尿病内科 ●肝臓・膵臓・胆道内科 TEL 092-642-5302	月・金 ※専門の疾患により 曜日が変わります。お 問い合わせの上 お越しください。 ※要紹介状	月・金
	先端分子・細胞治療科 TEL 092-642-5302	月・金	月・金
	ハートセンター外来 TEL 092-642-5371 TEL 092-642-5565	①月・木 ②火・水・金 ③月・水・木 ※要紹介状	①月・水 ②火・水・金 ③火・木
3階/東	循環器内科 ②血液・腫瘍内科(心臓血管グループ) ③心臓血管外科	月・水・金 ※要紹介状	火・木
	皮膚科 TEL 092-642-5597	月・水・金 ※要紹介状	火・木
1階	耳鼻咽喉・頭頸部外科 TEL 092-642-5681	火・木	月・水・金

※赤色の曜日は予約が必要です。  
 ※電話予約受付時間 14:00-18:00 予約に関するお問い合わせは、各診療科外来へ直接お電話ください。  
 ※再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となり、紹介状をお持ちでない方は治療費とは別に保険外併用療養費として、150円が必要となる場合があります。あらかじめ各診療科外来にお確かめ願います。

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!  
 ※保険証の提示がない場合には、保険での取扱いができません。

外来患者さんへ  
 ●本院のお薬は原則として「院外処方」としています。「院外処方せん発行」にご協力ください。  
 ●外来患者さん用の駐車場を準備していますが、駐車台数が限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用いただけますようご協力願います。

## ■北棟

階/西	診療科名	初診日	再診日
2階/西	神経内科 TEL 092-642-5349	火・水・金	月・水
	脳神経外科 TEL 092-642-5533	月・水・金	月・水・金
	泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科 TEL 092-642-5615	火・木	月・水・金
	精神科神経科 TEL 092-642-5640	火・木	月・金
2階/西第2	子どものこころの診療部 TEL 092-642-5642	火・木	月・金
	眼科 TEL 092-642-5660	月・水・金	月・金
2階/東	整形外科 TEL 092-642-5504	月・水・金 ※要紹介状	月・金
	放射線科 TEL 092-642-5705	月・水・金 ※放射線科 コード診療 は要予約	月・金
	総合診療科 TEL 092-642-5300	月・金	月・金
棟 階	診療施設等	電話番号	
	4階	ストーマ看護外来(月・金)	092-641-1151
		助産師外来(月・金)	092-642-5900
		糖尿病フットケア外来(水・金)	092-642-5302
	3階	リンパ腫外来(木)	092-642-5409(東) 092-642-5615(西)
	2階	外来化学療法室	092-642-5125
		がん相談支援室・緩和ケア	092-642-5200
		総合案内	092-642-6270
		外来受付	092-642-5138
		入院受付	092-642-5150
4階/東	公費相談窓口	092-642-5736	
	支払窓口	092-642-5169	
	1階	患者さん相談窓口	092-642-5132
		医療連携センター	092-642-5165
		社会福祉相談窓口	092-642-5167
		在宅療養支援室	092-642-5185
		ARO 次世代医療センター	092-642-5858
		緩和ケアセンター(水・木・金)	092-642-5998
	2階	栄養相談室	092-642-5180
	1階	院外受付	092-642-5163
	リハビリテーション受付	092-642-5862	

平成26年1月現在

■人間ドック(先進予防医療センター)  
 TEL 092-642-5746(月-金、8:30-17:00要予約)

# 九大病院だより

九州大学病院 広報委員会発行

## ■歯周組織再生療法(バイオ・リジェネレーション法)が先進医療として認められました

従来、歯茎表面より深く欠損した骨を再生する「歯周組織再生療法」は自費診療で行っていましたが、平成24年4月より先進医療として認められ、保険診療との併用ができることになりました。

### ■バイオ・リジェネレーション法=歯周組織再生療法

中等度から重度の歯周炎を患うと、歯と歯茎の隙間(歯周ポケット)が深くなり、そこに細菌がたくさん繁殖して、歯を支えている骨(歯槽骨)が溶けていきます。これを歯槽骨の吸収と言います。歯槽骨の吸収がある場合には、歯周ポケットを減らすために歯周外科治療(歯茎の切除)が必要となることがあります。

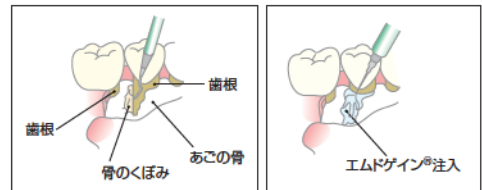
とくに、6ミリ以上の歯周ポケットが残存し、X線写真上で4ミリ以上の「垂直性骨欠損」と呼ばれる歯槽骨の吸収がある場合には、従来の歯周外科治療を行っても歯周組織の回復は困難であることが多いため、失われた歯周組織の再生を促す新しい治療法が開発されました。

### ■治療法の特徴(従来の治療法と比較して)

従来の歯周外科治療では、歯根に添って垂直的な骨欠損部に対しては骨を削って形を変える必要があり、歯を支える骨の量を減少させてしまうデメリットがありました。しかし、このバイオ・リジェネレーション法では骨の量を減らす必要

はありません。また、歯周組織の再生を促す働きがあるエムドゲイン®ゲルを歯根の表面に塗ることで、歯周組織の再生を期待することもできます。

この治療は九州大学病院歯周病科で行っていますので、関心のある方は、ご遠慮なく主治医や歯周病科外来にお尋ねください。



歯根表面の清掃

歯周組織の再生を促す薬の塗布

### ■料金

●エムドゲインゲル0.3ml 使用時 49,000円  
 0.7ml 使用時 56,000円

### ■歯周組織再生療法についてのお問い合わせ

◎歯周病科 TEL 092-642-6425  
 診察日：月・金

エッセイ  
 Essay



## 画像技術の進歩と 歯科診療

口腔画像診断科長

よしうら かずのり  
 吉浦 一紀  
 Kazunori Yoshiura

いまや携帯電話やスマートフォンでもカメラ付きが当たり前となり、いつでもどこでも気軽にデジタル写真を撮ることができるようになりました。簡単に撮り直しができ、また、街のカメラ屋さんで現像に出す手間もかからないデジタルカメラに慣れてしまうと、もはやフィルムに戻りたいとは思わ

なくなりません。ところが、カメラがフィルムからデジタルへと替わっていくようには、歯科におけるデジタル化はスムーズには進みませんでした。画像のきめ細かさやコントラストが不足しており、細かな構造物を観察するという歯科の特性に合わなかったのです。

このような欠点も今は克服され、最近では新しく歯科医院を開業する歯科医師は、ほとんどがデジタル画像診断機器を導入しています。さらには、歯科用CTが開発され、日常歯科診療にまで用いられるようになりました。最近までフィルムで診断していたのに、それが速い昔のようです。画像技術の進歩が画像診断装置の開発につながり、画像診断の進歩が診療レベルの向上につながっていることを実感します。

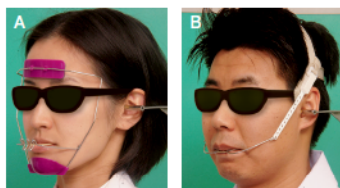
## ▶▶▶ 診療科のご案内 ①

## 矯正歯科——成長期の患者さんの矯正治療

歯は、上あごと下あごの歯より骨の上に生えていますので、上下の歯がしっかりと噛み合うためには、その歯を支える土台となる上下のあごの前後左右における位置が重要です。一般的には7、8歳頃になって、6歳臼歯と言われる第一大臼歯、そして上下の前歯が生えてきたころに歯並びと噛み合わせの検査・診断を行うこととなります。

診断に際しては、頭蓋や手のレントゲン写真、歯列模型などを採得し、詳細に分析を行います。成長期の患者さんにはその成長を利用したさまざまな矯正治療も考えられ、使用する装置とその治療を行うタイミングを判断し、効果的で効率の良い矯正治療を行うことが可能です。お子さんの歯並びに気になる箇所がある場合は、ご遠慮なくご相談ください。

矯正歯科： <http://www.ortho.dent.kyushu-u.ac.jp>



成長期の患者さんに使用する矯正装置の例  
A：上あご前方牽引装置（受け口の患者さんに用いる装置で、取り外しができ、おもに夜間に使用していただきます）  
B：ヘッド・ギア（上あごの位置や前歯が出てくる場合に使用する装置で、取り外しができ、おもに夜間に使用していただきます）

## ▶▶▶ 診療科のご案内 ②

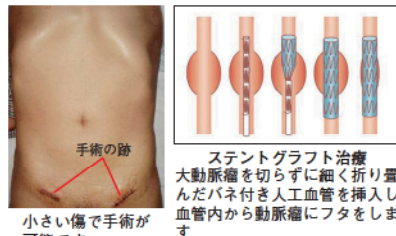
## 血管外科

当科は動脈硬化性疾患の大動脈瘤と閉塞性動脈硬化症の治療を専門としています。

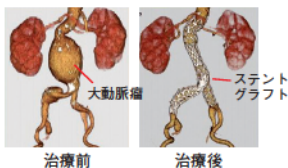
大動脈瘤とは大動脈がこぶ状(瘤)に、風船のように膨らんだ状態です。膨れすぎると破裂、大出血を起こす生命に関わる恐ろしい病気です。通常はお腹を大きく開け、瘤を人工血管で取り換えますが、患者さんの身体にたいへん負担がかかります。当科では、大動脈瘤に対し身体に負担の少ない、カテーテル治療(ステントグラフト挿入)を積極的に行っています。

閉塞性動脈硬化症とは、血管の本幹が詰まったり、狭くなったりして組織に十分な酸素を運搬できなくなる病気です。歩くとき足が痛くなったり、潰瘍ができ、最悪の場合足の切断を強いられます。人工血管を用い、閉塞している血管を迂回し新たな道(バイパス)を作り、血流を回復させて治療します。現在は、小さい傷で治療可能なカテーテル治療を積極的に行っています。

血管外科： <http://www.kyudai2geka.com/html/sinryo/sinryo.html#kekkan1>



小さい傷で手術が可能です



治療前 治療後

## ■連載 コメディカルを紹介します[8]

このコーナーでは本院の医療スタッフの役割を順次、紹介します

## 医療連携センター 看護師

医療連携センターでは、住み慣れた地域で患者さんが療養生活を継続できるよう退院支援を行っています。

専任の看護師が付き、おもに自宅退院に向けて、患者さんが住んでいる地域の病院や診療所、訪問看護ステーションなどの医療機関との連携を図っています。また、在宅療養中の患者さんへは、主治医の指示のもとに必要な医療材料を調整し、毎月の外来受診後に療養相談や療養指導を行っています。さらに、自宅退院が困難な場合などには、社会福祉士と協力して、転院先の病院や施設の紹介などのご相談に対応しています。

ご相談については、外来診療棟1階の医療連携センターにお問い合わせください。TEL: 092-642-5185(在宅療養支援室・予約をお願いします)



## 第6回 人間ドックのご紹介

## アルツハイマードック

先進予防医療センター 大八木 保政

近年、全国的に「もの忘れ外来」が開設されており、九州大学病院でも神経内科・精神科神経科共同での忘れ外来診療を行っています。

認知症の根本治療がない現在は、初期徴候を見つけ、早期より進行防止に介入することが大切です。明確な異常を感じる前に、アルツハイマー型認知症の初期徴候をチェックすることを目的に、アルツハイマードックが平成21年3月より先進予防医療センターにおいて開始しました。

認知症の診断には、専門医の問診や診察、画像検査やさまざまな認知テストの総合的判断が必要ですが、外来診療で診断する場合は予約制をとっていることが多く、敷居が高い感じがあります。

検診目的のアルツハイマードックでは、簡易認知機能テスト(MMSE)、タッチパネル式の記憶力テスト(STM-COMET)および頭部MRIによる海馬傍回の萎縮の定量的解析(VSRAD)の三つを行います。これらの検査と認知症専門医の面談を通して、経過観察で良いのか専門のものを忘れ外来を受診すべきかを助言しています。

病院を受診するまではないが、もの忘れが気になるという方は一度受診してみてください。



アルツハイマー型認知症の頭部MRI  
側頭葉の海馬部分が早期より萎縮します

九州大学病院別府病院  
のご紹介

## 免疫・血液・代謝内科

免疫・血液・代謝内科では、リウマチ性疾患・膠原病、血液疾患、糖尿病・内分泌疾患、骨粗しょう症、および消化管・臓器疾患について専門的な医療を提供しています。とくに当科の患者さんの約6割を占める関節リウマチは、長年の治療によっても病状が徐々に進行し、関節の変形を起こして日常生活に支障をきたすことも少なくありませんでした。

しかし、近年、生物学的製剤という新しい治療薬の登場によりリウマチ治療の考え方が大きく変わり、寛解(病気の勢いが完全に抑えられた状態)や治癒(完全に治った状態)をめざせる時代になってきました。

当科は、生物学的製剤を用いた治療については、大分県内でも1、2の経験を積んでいます。加えて、当科では異なる分野の専門医が頻りに意見交換をしながら、幅広い視点で一人ひとりの患者さんの診療を行っていますので、糖尿病や血液異常、消化管の病気などさまざまな病状が重複している患者さんにも対応が可能です。

さて、これから春に向けて…。別府病院のキャンパスは別府市内でも有数の桜の名所です。なかでも、私たちの5階病棟は別府湾と高崎山を一望できる絶好のロケーション。「病院にどうぞ」と言うのはなんだか変ですが、機会がありましたら、どうぞ!!



## ■トピックス 生活習慣病ランチョンセミナーを開催

先日、総合診療科の林純科長を招き、生活習慣病についてのランチョンセミナーを開催しました。今回のセミナーは、外食をする時のメニュー選びということでした。

生活習慣病は、日常生活の改善などにより予防することができます。とくに食生活の工夫や改善による予防は効果的です。

今回、実際に食事を介して、望ましいと考えられる食事の一例を体験してもらいました。

そのメニューは、レストランの実際のメニューに栄養管理室で調整を加えました。その最大のポイントは、1食を550kcal程度と設定して、野菜を100-150g、塩分を2g未満としたことです。それ以外の食材は、魚が90g程度、ご飯は150gでした。今回は、病院の協力を得て、百年講堂のレストランで開催しました。参加した患者さんもおもいも違った雰囲気になんか高揚感が見受けられました。

これからもこういう機会を数多く持てるように計画を予定しています。次回開催は、後日お知らせします。

TEL: 092-642-5176(栄養管理室)

